

5年	科目	哲学	講義	通年	担当	小柳 敦史 KOYANAGI Atsushi
全学科共通		Philosophy	必修	2履修単位		
授業の概要						
<p>哲学の歴史とは、自分たちが生きる世界について問い、より良く生きる方図を探す真摯な知的挑戦の歴史だった。本講義では先人たちのチャレンジを学んだ上で、私たち自らがその歴史に連なる努力をする。具体的には、前期において私たちが享受している科学技術や、私たちが生活を営んでいる近代社会について積み重ねられてきた思想を振り返り、現代の問題を考える武器を手に入れる。そして後期においてこの武器を用いながら、現代の重要な問題の一つである生命倫理について考えていく。後期については学生同士によるディベートも授業の重要な要素となる。</p>						
本校学習・教育目標(本科のみ)		目標	説明			
	○	1	技術者の社会的役割と責任を自覚する態度			
		2	自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力			
		3	工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力			
		4	豊かな国際感覚とコミュニケーション能力			
		5	実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢			
プログラム学習・教育目標(プログラム対象科目のみ)	A. 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力					
実践指針(専攻科のみ)						
授業目標						
<p>1. 与えられた情報をうのみにせず、批判的に思考しようと試みることができる。 2. 科学技術という営みの意味について反省的に理解し、適切な哲学的概念を用いて説明することができる。 3. 生命倫理の諸問題について、医療技術や生命科学技術の良い面も悪い面も理解した上で、自らの判断を説得力ある根拠とともに示すことができる。</p>						
授業計画						
第1回	前期オリエンテーション	授業の進め方／哲学とは何か、そしてなぜ学ぶのか。				
第2回	イントロダクション(1)	「考える」ことを考える。				
第3回	イントロダクション(2)	「他人と共に考える」ことを考える。				
第4回	イントロダクション(3)	クリティカル・シンキング入門。				
第5回	イントロダクション(4)	クリティカル・シンキングと合意形成。				
第6回	知性と理性の限界	人間の知的能力の有効性と限界について考える。				
第7回	感性の限界	人間の行動や存在の意味と限界について考える。				
第8回	前期中間試験					
第9回	市民社会と哲学	映画『ウェイブ』を鑑賞し、共同体の可能性／危険性について考える。				
第10回	市民社会と哲学	古代ギリシアにおける哲学の始まりを、市民社会のための倫理として考察する。				
第11回	科学・技術・宗教	宗教と科学と技術はどのような関係にあるのか。				
第12回	科学の哲学	近代科学とはどのような営みののだろうか。				
第13回	科学(者)の倫理	科学に携わる者の責任はどのようなものなのだろうか。				
第14回	技術の哲学	人間にとって技術とはどのような営みなのか。				
第15回	技術(者)の倫理	社会の一員として技術者は何をすべきなのか。				
	前期末試験					
第16回	前期まとめ	「幸せ」とは何か、「良い人生」とは何か。後期への橋渡しとして。				
第17回	後期オリエンテーション	後期の授業のテーマ、進め方、評価などについて				
第18回	生命倫理の諸問題	「生命倫理」とは何か／ディベートテーマの解説と担当者の決定				
第19回	優生学の問題	優生学的な発想の歴史と近代における展開				
第20回	ナチスドイツの生命観	健全さの追求が招いたもの				
第21回	日本の優生学	日本への優生学の導入から、優生保護法の問題まで				
第22回	命の誕生と生命倫理(1)	生殖補助技術についての解説				
第23回	命の誕生と生命倫理(2)	生殖補助技術使用の是非についてのディベート				
	後期中間試験	※実施しない				
第24回	命の誕生と生命倫理(3)	ディベートのまとめと補足				
第25回	安楽死・尊厳死(1)	安楽死／尊厳死とは何か				
第26回	安楽死・尊厳死(2)	安楽死／尊厳死の是非についてのディベート				
第27回	安楽死・尊厳死(3)	ディベートのまとめと補足				
第28回	脳死臓器移植(1)	脳死とはどのような状態なのか／移植医療の歴史				
第29回	脳死臓器移植(2)	脳死臓器移植の是非についてのディベート				
第30回	脳死臓器移植(3)	ディベートのまとめと補足				
	学年末試験	※実施しない				
第31回	まとめと補足	哲学を学ぶことについて(もう一度)				
評価方法と基準	前期授業中の課題10%、前期中間試験20%、前期末試験20%、後期提出物20%、後期末レポート(ディベーターについてはディベーター・レポートで代替)30%。					
教科書等	使用しない。授業ごとにプリントを配布する。					
備考	<p>1. 試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2. 授業参観される教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。</p>					